

◎栽培履歴の記帳を必ず行いましょう。

平成  
24  
年 度

# 大豆栽培こよみ

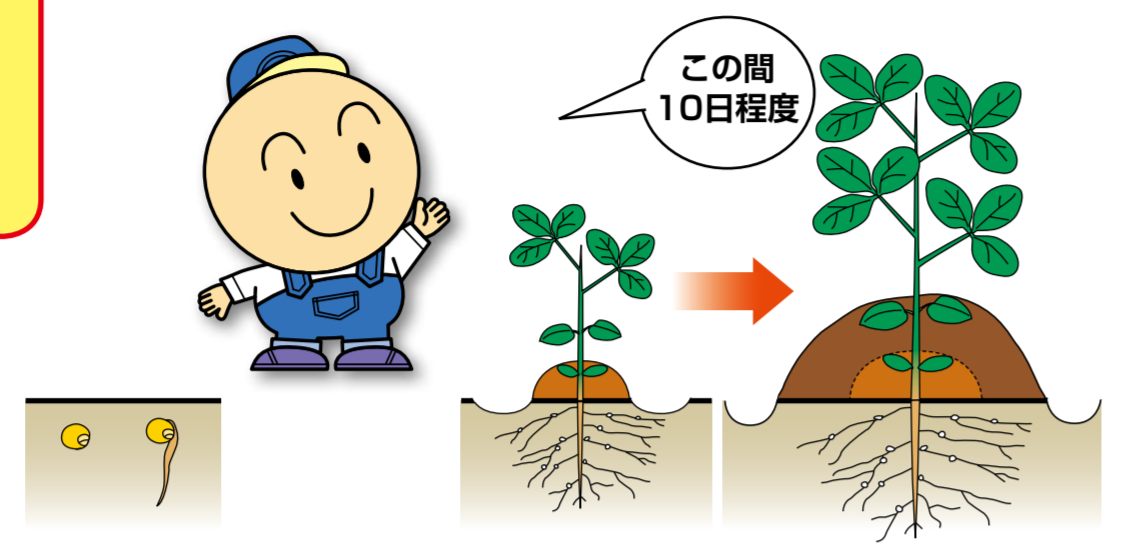
- 射水市
- JA いみず野
- 射水市農業技術者協議会

## 目標

単収：250kg以上/10a  
1～3等比率：80%以上  
大粒比率：80%以上

## 重点ポイント

1. 排水対策の徹底
2. 有機物の積極的施用  
(ヘアリーベッチ・発酵ケイフン)
3. 適期2回培土の実施



この間10日程度

<1回目培土>  
本葉2～3葉期  
(播種後20～25日)に  
子葉が隠れる程度まで

<2回目培土>  
本葉4～5葉期  
(播種後30～35日)に  
初生葉が隠れる程度まで

## <大豆を加害する害虫類>



<ウコンノメイガ葉巻>

7月下旬に1本あたり平均葉巻数が6個以上の場合、防除実施



ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウによる食害。こうなる前に防除実施



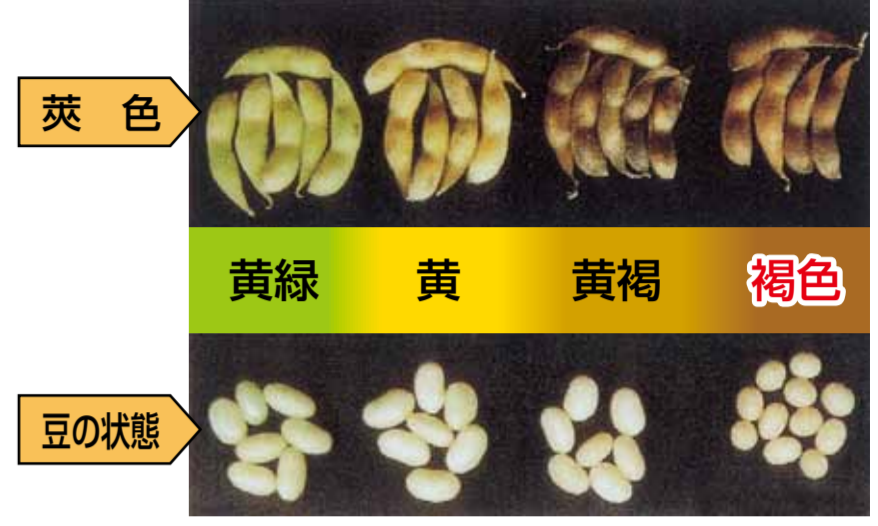
アオクサカメムシ



ホソヘリカメムシ

※発生状況により随時防除(右下表参照)

## <熟色判定の目安>



◆ 莢色が褐色になれば成熟期  
◆ 株全体の9割以上が褐色になれば収穫可能

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月					
	前月	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬					
生育ステージ			発芽	生育期			開花期			莢伸長期			子実肥大期			黄葉期			落葉期			成熟期		
主な作業	排水対策	土づくり			1回目培土			2回目培土			畦間かん水			1回目防除			2回目防除			収穫				

### 《排水対策》

- 前年秋又は遅くとも4月までに額縁及び基幹排水溝設置
- 心土破碎等で透水性向上

**排水手順**

- ①水口はしっかり止める
- ②額縁排水溝は早めに設置する
- ③排水口は深く掘り下げる
- ④サブソイラなどによる心土破碎
- ⑤播種直後に基幹排水溝を設置
- ⑥排水溝は確実に連結

### 《土づくり》

- 土壌pH6.0～6.5に矯正
- 有機物の積極的施用
- ヘアリーベッチの利用

資材名	10a当り施用量
苦土石灰又は顆粒消石灰等	100kg以上
発酵ケイフン	100～150kg

※疫病予防にも効果的!  
※有機物で地力を補おう!

### 《適期の2回培土実施》

- 株元にしっかりと土をかける。(上部イラスト参照)
- 培土後は必ず溝と排水口を連結する。

### 《雑草対策》

◆播種時除草剤散布例

薬剤名	10a当り散布量
トレファノサイド粒剤2.5	5～6kg
トレファノサイド乳剤	200～300ml+水100ℓ
エコトップ乳剤	400～600ml+水100ℓ
ラクサー乳剤	400～600ml+水100ℓ

◆生育期除草剤散布例

雑草の種類	薬剤名	10a当り散布量	注意
畑地1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200～300ml+水100ℓ	・散布は1回のみ ・イネ科雑草3～10葉期まで ・収穫30日前まで
畑地1年生雑草(イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100～150ml+水100ℓ	・散布は1回のみ ・大豆2葉期～開花前まで ・収穫45日前まで
雑草全般	バスタ液剤	500ml+水100ℓ	・収穫28日前まで3回以内 ・畦間散布(大豆にはかけない)

### 《畦間かん水》

- 開花後～50日の干ばつ防止の為、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- ほ場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。

使用上の注意を守って使ってね!

### 《収穫》

- 刈り取りの始期を確実に見極め、適期内に刈り終える。
- 刈り取り前に雑草や青立ち株を除去する。
- つゆがなくなってから刈り取る。
- 刈り取り高さは地際から10cm以上で行う。

### 《病虫害対策》

◆基本病虫害防除例

防除時期	防除対象	粉剤体系		液剤体系	
		薬剤名	10a当り散布量	薬剤名	希釈倍率 10a当り散布量
1回目防除	莢が伸びきった頃(8月上旬)	スミチオンベルコート粉剤DL 【カメムシ類・マメシクイガ・紫斑病】 (収穫21日前まで)	3kg	ダントツフロアブル 【カメムシ類・アブラムシ類】 (収穫7日前まで)	2,500倍 150ℓ
	豆が莢いっぱいになった頃(8月下旬)	(*)マネージトレボン粉剤DL 【カメムシ類・紫斑病】 (収穫30日前まで)	4kg	ベルコートフロアブル 【紫斑病】 (収穫7日前まで)	1,000倍 150ℓ
2回目防除				(*)トレボン乳剤 【カメムシ類】 (収穫14日前まで)	1,000倍 150ℓ
				アミスター20フロアブル 【紫斑病】 (収穫7日前まで)	2,000倍 150ℓ

◆随時病虫害防除例

病虫害の種類	薬剤名	希釈倍率	10a当り散布量
茎疫病	フェスティバルC水和剤(収穫7日前まで)	600倍	150～300ℓ
ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤(収穫7日前まで)	-	4kg
マメシクイガ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、カメムシ類	ダントツH粉剤DL(収穫7日前まで)	-	3～4kg (マメシクイガの場合は4kg)
マメシクイガ、ハスモンヨトウ等	(*)トレボン粉剤DL(収穫14日前まで)	-	4kg
	(*)トレボン乳剤(収穫14日前まで)	1,000倍	150ℓ

(\*)の使用回数は2回以内

### 《播種作業》

- 消毒(クルーザーFS30) 済種子を使用 対象害虫 フタスジヒメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類
- 栽植本数確保の為、エンレイはB-22、オオツルはB-3を使用

◆播種の目安(条間85cmの場合)

品種	播種時期	目標栽植本数(本/10a)	使用目皿	スプロケット目皿 車輪		播種量の目安(kg/10a)
				目皿	車輪	
エンレイ	5月下旬～6月上旬	14,000	B-22	13	11	4.7
	6月中旬	16,000		11	10	5.1
オオツル	6月上旬～中旬	12,000	B-3	10	11	4.5

(施肥例)

項目	資材名	10a当り施用量
基肥	単作大豆	いみず野有機1号 30kg
	麦跡大豆	いみず野有機1号 35kg

※目標栽植本数を確保するために目皿の交換、スプロケットの調整を行う。  
※エンレイは中粒、オオツルは大粒で計算。  
※地力が高く、発酵ケイフンを施用したほ場は基肥施肥量を1～2割減らす。

※の使用回数は2回以内